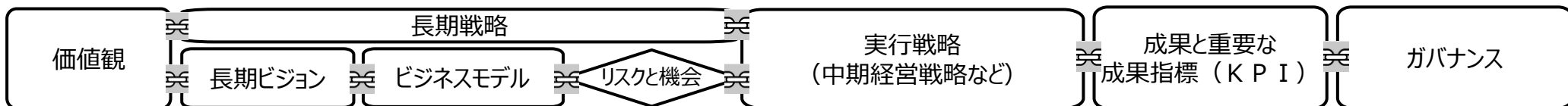


価値協創ガイダンス2.0の全体図



社会の長期的なサステナビリティを展望し、企業のサステナビリティと同期化

| | | | | | | |
|---|---------------------------------|---|--|--|--|--|
| <p>1.1. 価値観を定める意義</p> | <p>2-1.1. 社会への長期的な価値提供の目指す姿</p> | <p>2-2.1. 市場勢力図における位置づけ</p> <p>2-2.1.1. 付加価値連鎖（バリューチェーン）における位置づけ</p> <p>2-2.1.2. 差別化要素及びその持続性</p> | <p>2-3.1. 気候変動等のESGに関するリスクと機会の認識</p> | <p>3.1. ESGやグローバルな社会課題（SDGs等）の戦略への組込</p> <p>3.2. 経営資源・資本配分（キャピタル・アロケーション）戦略</p> | <p>4.1. 財務パフォーマンス</p> <p>4.1.1. 財政状態及び経営成績の分析(MD&A等)</p> <p>4.1.2. 経済的価値・株主価値の創出状況</p> | <p>5.1. 取締役会と経営陣の役割・機能分担</p> |
| <p>1.2. 社会への長期的な価値提供に向けた重要課題・マテリアリティの特定</p> | | <p>2-2.2. 競争優位を確保するために不可欠な要素</p> <p>2-2.2.1. 競争優位の源泉となる経営資源・知的財産を含む無形資産</p> <p>2-2.2.2. 競争優位を支えるステークホルダーとの関係</p> <p>2-2.2.3. 収益構造・牽引要素（ドライバー）</p> | <p>2-3.2. 主要なステークホルダーとの関係性の維持</p> | <p>3.3. 事業売却・撤退戦略を含む事業ポートフォリオマネジメント戦略</p> <p>3.4. バリューチェーンにおける影響力強化、事業ポジションの改善、DX推進</p> | <p>4.2. 企業価値創造と独自KPIの接続による価値創造設計</p> <p>4.3. 戦略の進捗を示す独自KPIの設定（社会に提供する価値に関するKPIを含む）</p> | <p>5.2. 経営課題解決にふさわしい取締役会の持続性</p> <p>5.3. 社長、経営陣のスキル及び多様性</p> |
| | | | <p>2-3.3. 事業環境の変化への対応</p> <p>2-3.3.1. 技術変化の早さとその影響</p> <p>2-3.3.2. カントリーリスク</p> <p>2-3.3.3. クロスボーダーリスク</p> | <p>3.5. イノベーション実現のための組織的なプロセスと支援体制の確立・推進</p> <p>3.6. 人的資本への投資・人材戦略</p> <p>3.7. 知的財産を含む無形資産等の確保・強化に向けた投資戦略</p> <p>3.7.1. 技術（知的資本）への投資</p> <p>3.7.1.1. 研究開発投資</p> <p>3.7.1.2. IT・ソフトウェア投資／DX推進のための投資</p> <p>3.7.2. ブランド・顧客基盤構築</p> <p>3.7.3. 企業内外の組織づくり</p> <p>3.7.4. 成長加速の時間を短縮する方策</p> | <p>4.4. 資本コストに対する認識</p> <p>4.5. 企業価値創造の達成度評価</p> | <p>5.4. 社外役員のスキル及び多様性</p> <p>5.5. 戦略的意思決定の監督・評価</p> <p>5.6. 利益分配及び再投資の方針</p> <p>5.7. 役員報酬制度の設計と結果</p> <p>5.8. 取締役会の実効性評価のプロセスと経営課題</p> |



実質的な対話・エンゲージメント

取締役会と経営陣の役割分担とコミットメントの下、投資家との対話・エンゲージメントを深め、価値創造ストーリーを磨き上げる

6.1. 実質的な対話等の原則

6.2. 実質的な対話等の内容

6.3. 実質的な対話等の手法

6.4. 実質的な対話等の後のアクション